

# GINZA@PARK SYSTEM

銀座に身体的快適性を実装せよ

〈概要文〉 銀座には、「銀座」という独特の雰囲気を感じながら、まちそのものを楽しむ「銀ぶら」という文化がある。しかし、近頃は銀座を訪れる目的が限定化し、銀ぶらの矮小化が進んでいる。私たちは、銀座を使う人々の手によって「身体的喜び」を生み出すPARKによって銀ぶらをアップデートすることを提案する。

私たちは銀座のイメージをアップデートするシステムをアプリとして提案し、「身体的喜び」を生み出すPARKを銀座を愛する私たち自身の手で創り出そう。

## Living GINZA!

さあ、銀座を肌で感じよう。新たな activity がここから始まる。



**A リアルカタログPARK:**  
企業の宣伝を兼ねることによるPARK的空間の創出  
大都会に居ながら、大自然に投げ出されるような  
感覚を味わうことができ、商品のプロモーションにもなる



**BウォールプレイPARK:**  
壁面をアーティストに貸し出し、アトリエ兼ギャラリーとする。  
フォトジェニックなこのPARKではSNSによる  
ユーザー主体の発信が行われ、銀座の新たなActivityとなる



**C スカイPARK:**  
銀座の屋上をPARKとして活用することで、  
街路からみえる小さな空ではなく、広々とした空を体験できる。  
銀座の空が私たちの憩いの場となる



### 背景

銀座はハイカルチャーが集積する、人々にとって憧れのまちである。人々はそんな煌びやかなまちに憧れを抱いてやってくる。そして、実際のまちでイメージと自分を重ね合わせ、少しばかり酔いしれて、ぶらぶらし、楽しむのである。それがかつての銀座であった。

いまの銀座は、お決まりのブランドや割烹店など強い目的を求め訪れる人であふれ返っている。このままでは銀ぶらの矮小化が進み、ぶらぶらすというより、目的地めがけて移動する人々とすれ違うだけの発見性のないまちになってしまうだろう。本来のまちを楽しむ醍醐味は、まちを歩き、時に座り、立ち止まり、考え、憩う時に生じる身体的喜びを感じることはないか。近頃、そのような「身体的喜び」を感じる機会が銀座になくなりつつあることに問題を感じる。

そんな中で「GINZA SONY PARK」、「GINZA SIX」の屋上庭園のような「身体的喜び」を感じられる場所が登場した。コンテンツを楽しむだけでなく「身体的喜び」を感じられる空間が銀座に求められていることがうかがえる。

私たちはそんな変化の兆しを読みとり、銀座におけるパブリックスペースを、「PARK」身体的喜びを呼び覚ますためのトリガーとして【GINZA@PARK SYSTEM】を提案する。



### 銀座における「PARK」

現在の銀座には、気軽に立ち寄れるパブリックスペースとしての役割を担う公園が少ない。また、銀座固有の経済性＝高騰した地価とそれに比例した高利益を生む必然性の影響もあり、人々の豊かな身体的活動を生む余白はゼロに近い。中でも、中央通りは人々のイメージする「銀座」が創り出される場であり、ブランド性が根付いている。一方それ以外の通りでは、通りとしてのブランディングが不十分である。私たちは、この余白を銀座の編集可能な空間として、価値と捉えた。

### アプリ：GINZA@PARK SYSTEM

私たちは銀座のイメージをアップデートするシステムをアプリとして提案する。銀座のハイカルチャーな特殊性を逆手に取り、体を使った「身体的喜び」を感じられるPARKを銀座を使う人々の手で創り出すことがこのアプリの機能だ。

「GINZA@PARK SYSTEM」は以下のシステムにより、運営される。

